

## 平成 27 年（2015 年）の弥陀ヶ原の火山活動

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

## ○ 噴火警報・予報の状況、2015 年の発表履歴

|             |                   |
|-------------|-------------------|
| 2015 年中変更なし | 噴火予報（活火山であることに留意） |
|-------------|-------------------|

## ○ 2015 年の活動概況

## ・ 噴気・地熱等の状況（図 1 ～ 7）

10 月 16 日から 20 日にかけて地獄谷噴気地帯の現地調査を実施しました（図 1 ～ 4）。地獄谷周辺では、引き続き活発な噴気活動が認められました。

11 月 4 日に北陸地方整備局の協力により上空からの観測を実施しました（図 5 ～ 7）。前回（2014 年 10 月 31 日）と同様に、地獄谷周辺で引き続き活発な噴気活動が認められました。赤外熱映像装置<sup>注）</sup>による観測では、地獄谷周辺などに引き続き高温域がみられ、その分布域は 2014 年 9 月と比較して特段の変化はありませんでした。

## ・ 地震や微動の発生状況（図 8）

弥陀ヶ原近傍を震源とする地震は少なく静穏に経過しています。

火山性微動は観測されていません。

注）赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する機器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、京都大学、東京大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 2500（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図1 弥陀ヶ原 地獄谷地図  
(図2、図3の位置及び図4の撮影位置・方向を示します)



図 2 弥陀ヶ原 地獄谷紺屋橋南東斜面の状況

撮影位置は図 1 を参照 左側が 2014 年 9 月の調査、右側が 2015 年 10 月 16～20 日の調査  
上段は全景、下段は上段赤丸内の噴気孔（矢印）の様子

・地獄谷周辺では、引き続き活発な噴気活動が認められています。



図 3 弥陀ヶ原 地獄谷遊歩道の状況

撮影位置は図 1 を参照 左側が 2013 年 10 月 1 日、右側が 2015 年 10 月 16～20 日の調査

・遊歩道上の陥没した所（赤丸）からは、2013 年 10 月、2014 年 9 月に引き続き噴気が認められましたが、2013 年 10 月に確認された新鮮な硫黄昇華物（白丸）は、2014 年 9 月、2015 年 10 月ともに認められませんでした。

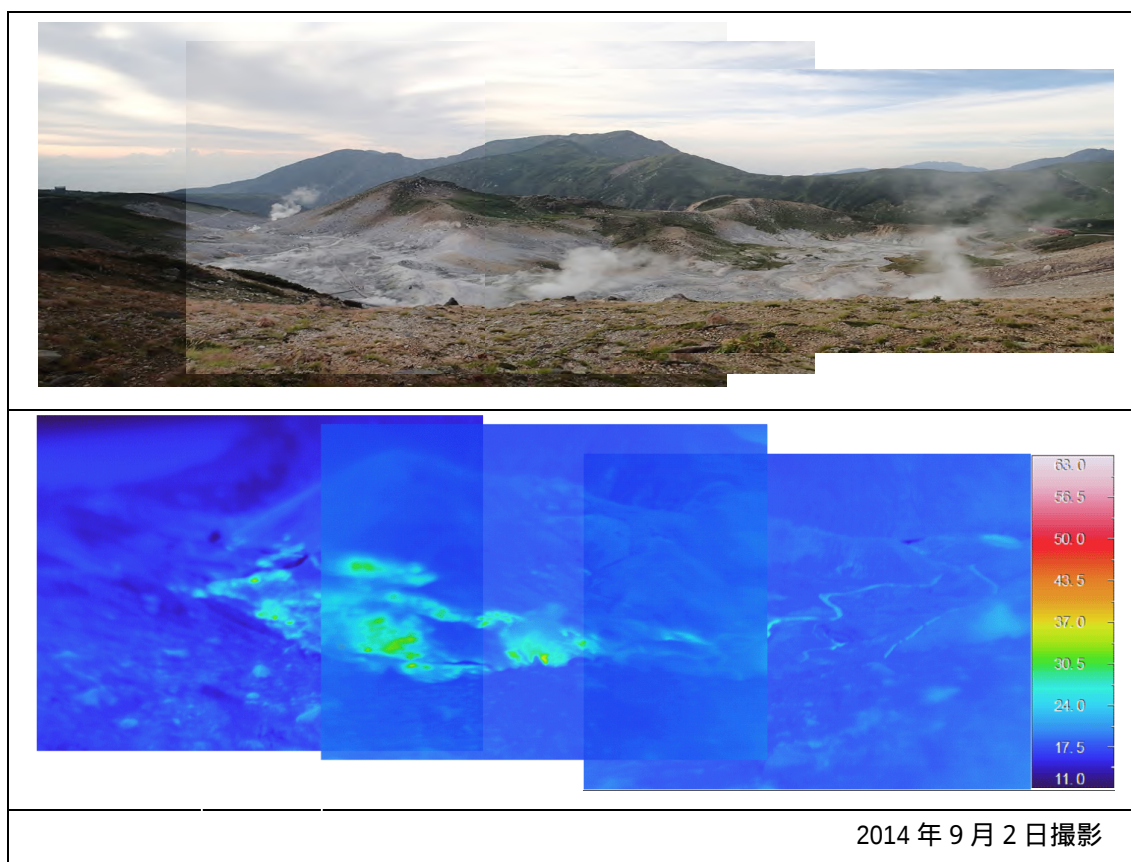
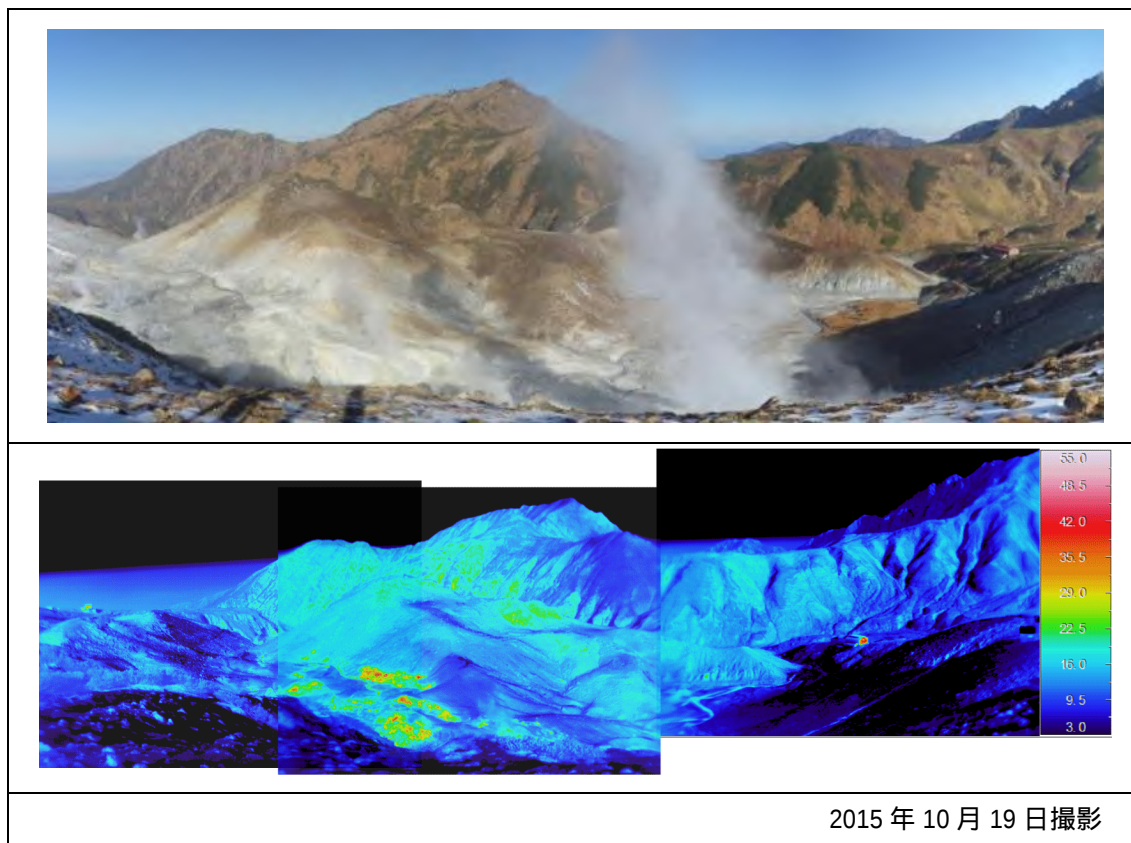


図 4 弥陀ヶ原 地獄谷噴気地帯の地表面温度分布

撮影位置は図 1 を参照

- ・局地的な噴気孔や硫黄物昇華の状況の変化は見られましたが、2014 年 9 月と 2015 年 10 月の比較では、高温域の分布に特段の変化は見られませんでした。



図5 弥陀ヶ原 撮影位置図

・図中の矢印は図6～7の概ねの撮影位置と撮影方向を示します。

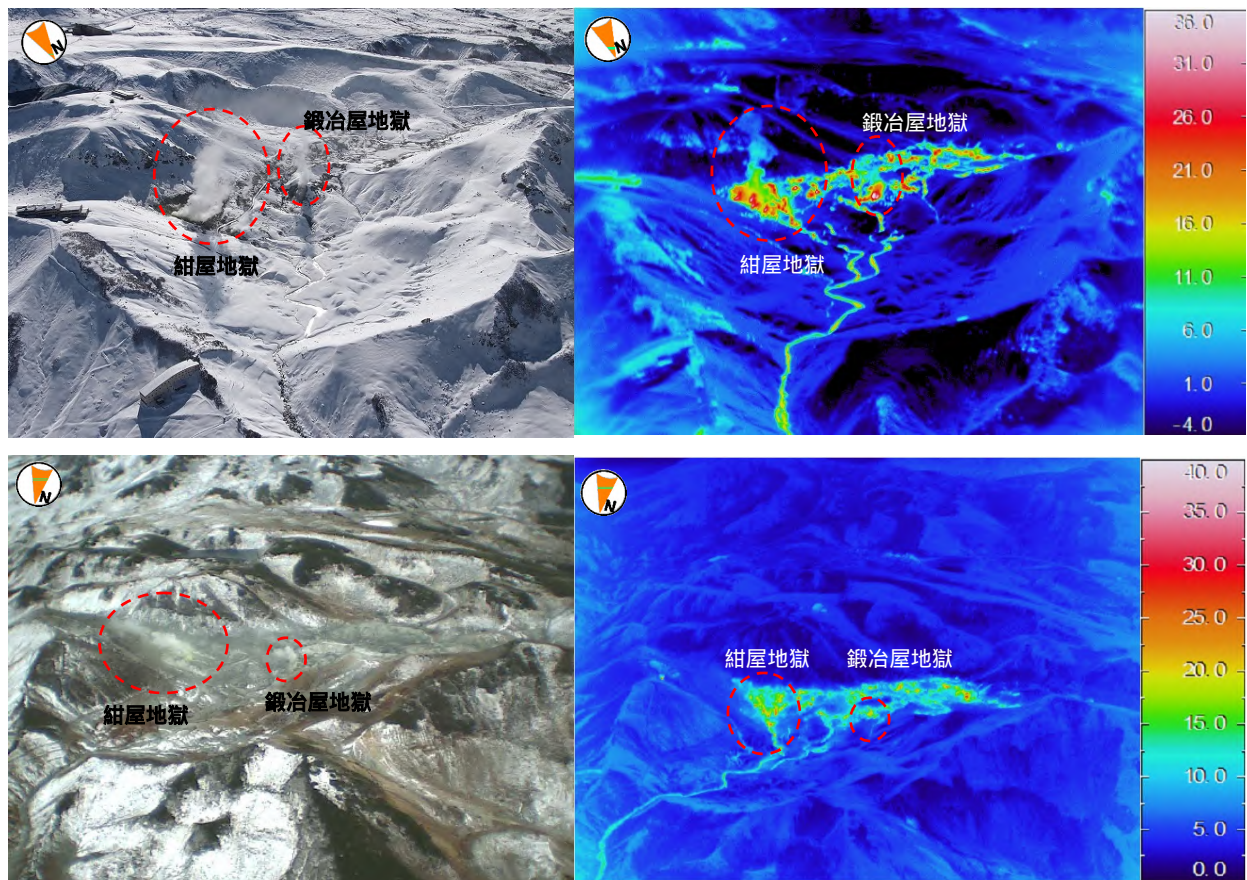


図6 弥陀ヶ原 地獄谷付近の状況（北側から）

上段：2015年11月4日、下段：2014年10月31日撮影

・紺屋地獄及び鍛冶屋地獄周辺では、活発な噴気活動が見られましたが、高温域の分布は、2014年10月と比較して特段の変化は認められませんでした。

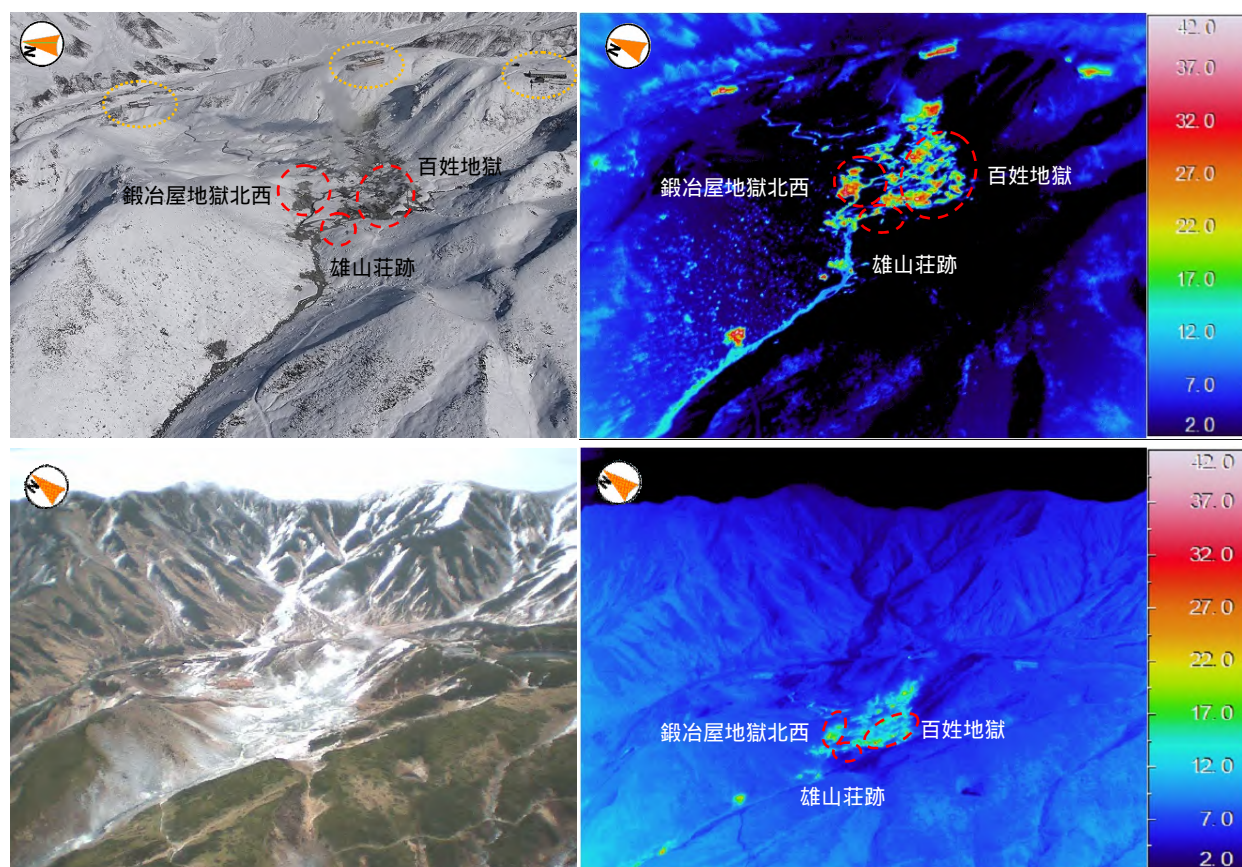


図 7 弥陀ヶ原 地獄谷付近の状況（西側から）  
上段：2015 年 11 月 4 日、下段：2014 年 10 月 31 日撮影

- ・ 11 月の観測では、百姓地獄、鍛冶屋地獄北西では、弱い噴気が確認できました。高温域の分布は、2014 年 10 月と比較して特段の変化は認められませんでした。

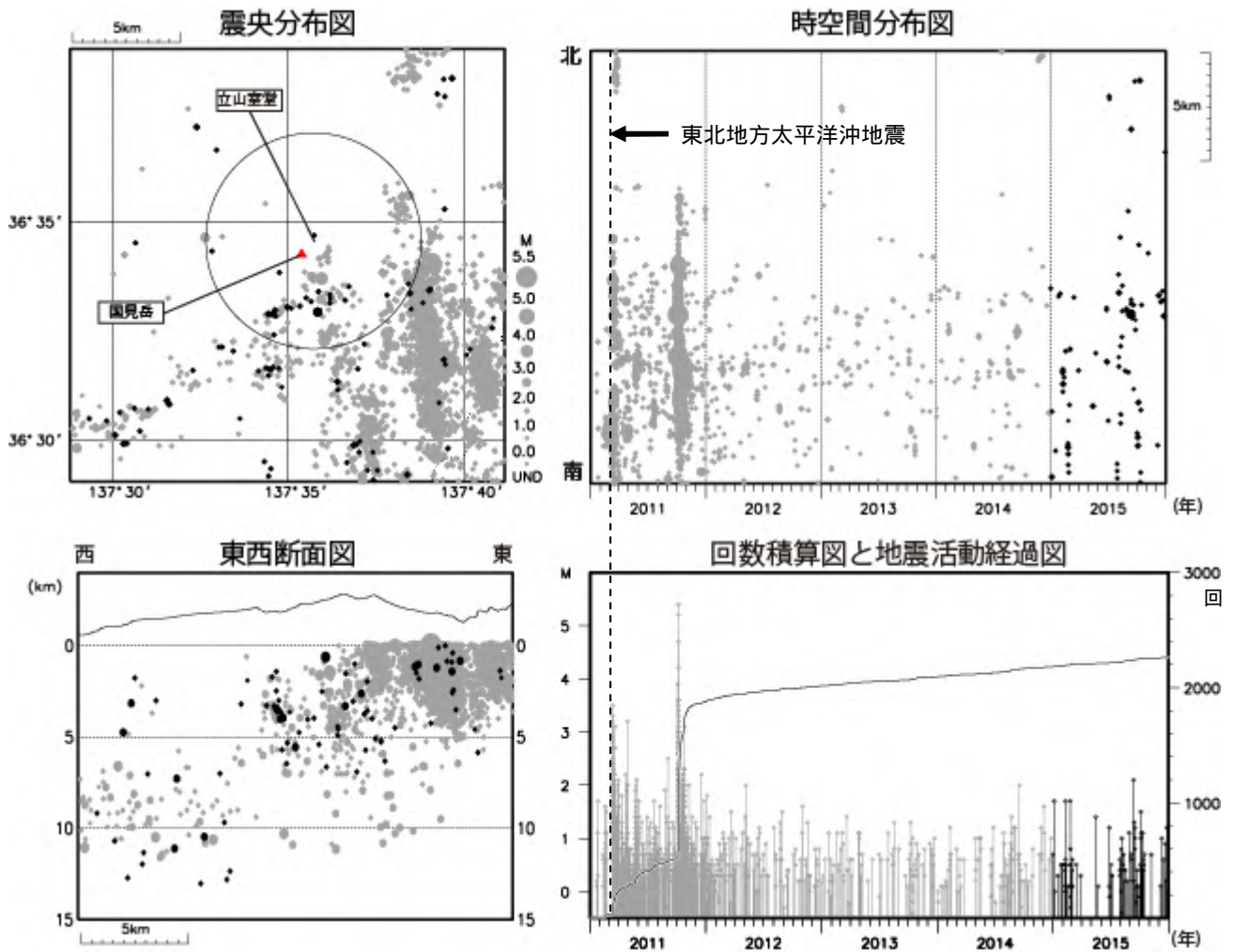
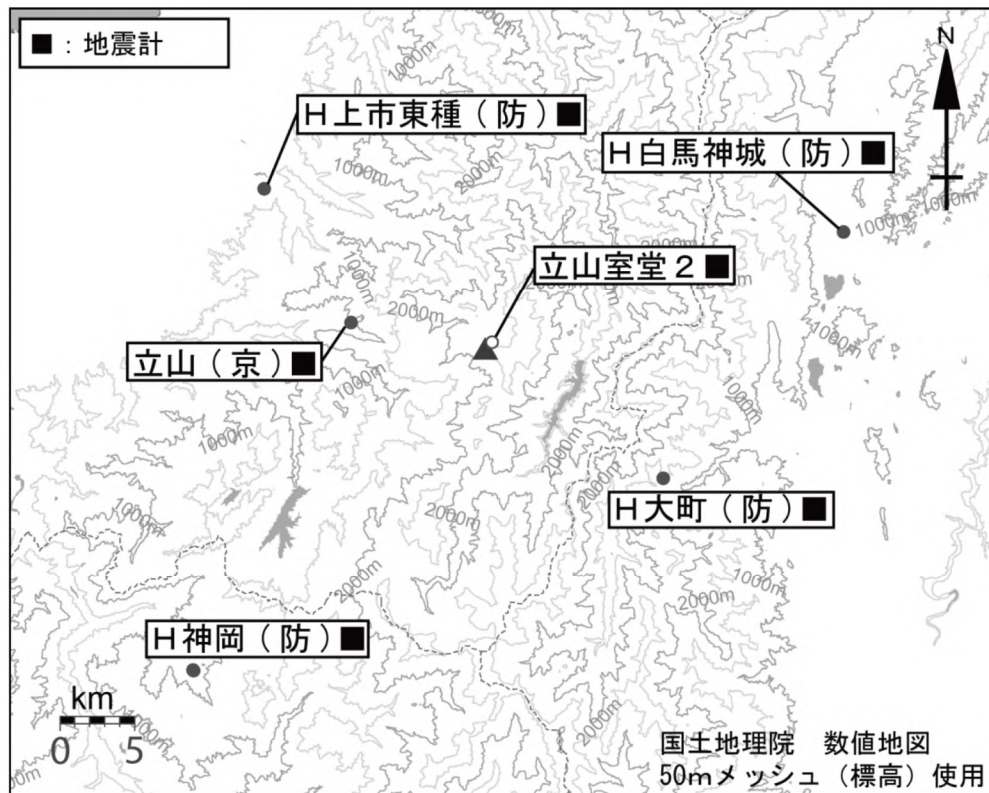


図 8 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動

(2011 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)

● : 2011 年 1 月 1 日～2014 年 12 月 31 日      ● : 2015 年 1 月 1 日～12 月 31 日

- ・震央分布図の点線の円は、立山室堂に設置した地震計（立山室堂 2）で S-P 時間 1 秒以内となるおよその範囲を示します。
- ・今期間、周辺の地震活動は低下しながら継続しています。
- ・弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調な状況で経過しています。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(京) : 京都大学防災研究所

図 9 弥陀ヶ原 観測点配置図

表 1 弥陀ヶ原 気象庁の観測点一覧

| 測器<br>種類 | 地点名    | 位置         |             |       | 設置高<br>(m) | 観測開始日     | 備考       |
|----------|--------|------------|-------------|-------|------------|-----------|----------|
|          |        | 緯度         | 経度          | 標高(m) |            |           |          |
| 地震計      | 立山室堂 2 | 36° 34.66′ | 137° 35.73′ | 2426  | 0          | 2012.11.7 | 短周期 3 成分 |